

ハエの防除対策をしましょう



気温が上昇し、ハエの発生が目立つ時期です。

対策を怠ると大量発生し、家畜へのストレス・病原体の媒介・近隣からの苦情など深刻な弊害を生じます。薬剤を適切に使用し、効率的な防除に努めましょう。

★ハエのライフサイクルと対策★

卵
(約1日)

◆幼虫対策◆

昆虫発育抑制剤(IGR剤)を使用します。
費用対効果が高く、ハエの基本的対策です。

【方法】

・うじの発生する場所に、IGR剤を水で希釈して1ヶ月毎に散布する

※薬剤の濃度を守り、十分な量を均一に散布します。散布する間隔があき、薬効に切れ目をつくると十分な効果は得られません。

うじ
(約2日)

◆成虫対策◆

ハエが増えてきたら、IGR剤の散布回数を2週間間隔に増やし、毒餌法をあわせて実施します。

毒餌法は、ハエを引きつける餌(砂糖、粉ミルク、お酒、糖蜜など)に有機リン系、カーバメイト系の薬剤を混合して、成虫を退治します。

【方法】

①薬剤を水で10倍に希釈

②0.5%程度の糖蜜や砂糖水を混合して洗面器等に適量入れる
必要に応じて粉ミルク、お酒を加える

③農場内の適切な場所に設置

※家畜やペットが誤って食べないように注意が必要です

さなぎ
(数日間)

成虫
(約3週間)

有機リン系:トリクロロホン剤、フェントロチオン剤、プロチオホス剤など

カーバメイト系:プロボクスル剤、カルバリル剤、バリゾン乳剤など

固形の毒餌としては、イミダクトプリド剤が市販されています。

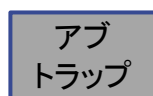
◆環境対策◆

ハエが繁殖する場所をなくします。畜房のすみ、污水だまり、残餌、飼槽や給水器の下部、通路の汚物や破卵など、発生源を重点的に清掃・除糞し、乾燥させます。

★アブの防除対策をしましょう★

夏には、ハエだけではなくアブも発生するようになります。アブは吸血を行い、家畜へのストレス・病原体の媒介などの原因となります。特に牛では、牛白血病が問題となります。

アブの防除対策として、上記の環境対策、産卵場所にする植物の刈り取り、及びアブトラップの設置、防虫ネットなどでアブが畜舎に侵入するのを防ぎましょう。



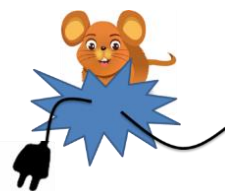
畜舎の火災事故を起こさないために

先般、県内において畜産関係施設の火災事故が発生しました。現時点では原因は特定されておりませんが、空気が乾燥し火災が発生しやすくなっています。火災事故から家畜・畜舎を守るため、今一度点検を行いましょう。

1. 電気設備と配線は、漏電と加熱の点検を行いましょう。

(1) 絶縁の損傷やホコリの付着により漏電がおき、火災や感電の原因になります。

- ・電気設備、配線が雨や結露などにより傷んでいませんか。
- ・扉に挟まれたり、ネズミにかじられたことによる配線の露出はありませんか。
- ・コンセントやプラグ、スイッチの周囲にホコリはたまっていますか。
- ・電気保安協会等の定期点検を受けて、漏電の有無を確認しましょう。



(2) 電気の使用容量をオーバーしたり、コンセント・スイッチの接触が悪くなると過熱による発火の原因となります。

- ・タコ足配線による容量オーバーはありませんか。
- ・プラグはコンセントにしっかり差し込まれ、老朽化していませんか。
- ・開閉器には適切なヒューズが使用されていますか。

2. 暖房器具等の使用時は取り扱いに注意しましょう。

- ・暖房器具等の周囲に乾草、エサ袋、木材等の燃えやすいものを置かない。
- ・石油ストーブは火をつけたまま給油や移動をしない。



3. 畜舎火災の発生を想定した準備をしておきましょう。

- ・消火器具を整備・充実しておきましょう。
- ・消火訓練に取り組みましょう。
- ・家畜の避難方法や避難場所を検討しておきましょう。



飛騨家畜保健衛生所(飛騨総合庁舎内)

〒506-8688 高山市上岡本町7-468

TEL:0577-33-1111 FAX:0577-32-9019 E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp

